

2024 年度 国際言語文化学コース卒業論文一覧

〈言語構造専修〉

・ Genitives in English

英語における属格の所有形容詞(例: Mary's brother)と of-属格(例: the brother of Mary)の交替現象を考察し、特に絵画名詞と呼ばれる名詞句を含んだ場合に見られる曖昧性がどのようにして生じるかを議論した。

・ Subjunctive Mood and Indicative Mood

仮定法によく似た直説法の文が存在する原因が、過去時制によって心理的「距離」を取ることができるためというだけでなく、前後の文脈も重要な役割があることを主張した。

・ Secondary Predicates and Mutual C-command

英語の二次述語(secondary predicate)と呼ばれる統語現象において様々な可能な述語の組み合わせのパターンを考慮することで、主に C 統御(c-command)という概念を用いて分析を行った複数の先行研究を比較し検討した。

・ Passive Voice in English

中高の英文法の範疇を超えて、受動態の構造について論じた。特に英語母語話者への聞き取り調査を通して、能動文と受動文は対になっている関係に見えるが、実は全く違う文の成立過程を持っていることを示した。

・ Redefinition of Idioms

英語のイディオムの再定義を行うことで、イディオムと非イディオムの違いを明確にし、さらに凍結度(分解度)に関しては、統語上の振る舞いと相関関係がみられることから、イディオムを3つのレベルに分類した。

・ Adjectives ending -ed

名詞と結合して名詞を形容詞にする英語の接辞-edについて論じた。特に動詞と結合する接辞-edとの違いや結合についての制約を考察し、また、意味的観点からこのような派生形容詞は3つのグループに分類できることを示した。

・ Resultative Constructions in English

英語の結果構文と呼ばれる統語現象についての研究である。先行研究に基づき本来の結果構文と派生的結果構文の2種類を軸に各分類の特徴をまとめ直し、さらに先行研究の問題点を指摘して代案を示した。

・ Two Types of Conditional Clauses: Central-Conditionals and Peripheral-Conditionals

英語の条件節を2種類に分類し、それぞれの内部構造と外部構造を統語論の観点から考察した。特に内部構造については、英語母語話者へのアンケート調査やコーパスの利用を通して、提案した構造を検証した。

- ・ *That*-clauses

動詞、名詞、形容詞に続く *that* 節の省略に関して、統語論、意味論の観点から論じた。特に、コーパスによる調査によって、従来の研究で主張されていた *that* が省略不可能な環境でも実際は省略が可能であることを示した。

〈英語圏文化専修〉

- ・ An Analysis of the American Indie Rock Band Pavement

アメリカのインディーロックバンド Pavement の 90 年代から現代までの批評、バンド自身の批評へのスタンスを分析した。

- ・ The Deception of the American Dream in Fitzgerald's *The Great Gatsby*

アメリカンドリームには自身の能力ではどうにもできない階級や経済的な壁が存在していることをフィッツジェラルドの小説『グレート・ギャツビー』が示していることを論じた。

- ・ An Analysis of Stars Hollow as an Idealized Community in *Gilmore Girls*

本論はアメリカのテレビドラマ『ギルモア・ガールズ』に登場する架空の町、スターズ・ホーローにおける理想化されたコミュニティについて批判的に分析したものである。

- ・ From "Winter Dreams" to *The Great Gatsby*: F. Scott Fitzgerald's Autobiographical Revision

作家スコット・フィッツジェラルドは、金銭問題・夫婦仲の悪化・意志に反した仕事を通して生じた心境変化を元に、短編「冬の夢」を長編『華麗なるギャツビー』に書き直したことを論じた。

- ・ A Fine Line Between Sanity and Insanity in *Mrs. Dalloway* Analyzed by Deleuze and Guattari's Concept — Schizophrenic Symptoms and Rhizomatic Expansion of Life —

ヴァージニア・ウルフ著『ダロウェイ夫人』の二人の登場人物をドゥルーズとガタリによるリゾームの概念を用いて比較分析し、正気と狂気が紙一重であることを示し、思考の隙間を埋める避けられないものとしての狂気について考察した。

- ・ Myths in the Original *Star Wars* Trilogy: Monomyths, Hollywood Myth-Making and the Anti-Myth of the Vietnam War

この論文はジョセフ・キャンベルの「モノミス」と呼ばれる原質神話の構造がどのように映画『スター・ウォーズ』のオリジナル三部作に反映され、映画の成功にどう貢献したのか考察し、同作品が神話的要素と反神話的要素を持つ両面的な映画であることを論じた。

- ・ Steinbeck's *Of Mice and Men* and *The Grapes of Wrath*: Suggestions of Collectivism, Matriarchy, and the New Deal

スタインベックによる大恐慌下の労働者の生というテーマの扱いがどのように変化したかを、『怒りの葡萄』の集団主義、家母長制、ニューディール政策という三つの社会原則を、『ハツカネズミと人間』の個人主義、家父長制、資本主義という三つの社会原則と比較して、社会学的観点から考察した。

- ・ J.K. Rowling's *Harry Potter* Series as Inadvertent Criticism of Friedrich Nietzsche's Superman

『ハリー・ポッター』シリーズのキャラクターと、ニーチェの超人の関係について論じた。

・ A Socio-Economic Reading of F. Scott Fitzgerald's *The Great Gatsby*: The Issues of Immigrants and Economy

F. Scott Fitzgerald の小説 *The Great Gatsby* が 20 世紀前半のアメリカ社会を反映しており、一般にモダニズム作家とされる Fitzgerald がリアリズム作家としての側面を持っていることを論じた。

・ The Representation of Children and Adults in Roald Dahl's *Matilda* and *Charlie and the Chocolate Factory*

イギリスの作家ロアルド・ダール (Roald Dahl) による児童小説 2 作品における子どもと大人の関わりや対比のされ方について、コメディの伝統に基づく誇張表現の使用や読書療法との関連に着目しながら比較した。

・ The Influence and Difference of Jean-Jacques Rousseau's Ideas in *Alice's Adventures in Wonderland*

ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』におけるジャン＝ジャック・ルソーの思想の影響と批判を、ファンタジーとリアルの観点から分析した。

〈ヨーロッパ文化専修〉

・ J.R.ヒメネス『プラテロとわたし』の日本語訳の比較

スペインの詩人ヒメネスの代表作『プラテロとわたし』について、複数の日本語訳を比較してその差を検討し、良い翻訳とは何かを考察した。

・ ドイツ語学習とコミュニケーション研究 ～ドイツ語非母語話者同士のコミュニケーションに着目して～

ドイツ語非母語話者の言語使用についてコミュニケーションの側面から調査分析を行うことで、彼らの言語学習にはどのようなアプローチをするべきかを提示した。

・ 外国映画における色の役割について ―『アメリ』と『シェイプ・オブ・ウォーター』の比較から―

外国映画において、作品内で使われている色がどのような役割を担っているのか、共通点を持つ 2 作品の分析と比較から、その表現について論じた。

・ フランスの児童文学 子どもの本のあり方について

先行研究における 18 世紀フランス児童文学への批判をもとに、子どものため本の役割に焦点をあて、教育的側面が強い児童文学の課題を明らかにし、児童文学のあるべき姿について検討する。

・ 日本におけるオイゲン・ヘリゲルの受容とその影響について

オイゲン・ヘリゲルの『弓と禅』について、ドイツ人哲学者が記した弓道書がドイツだけでなく、日本でも広く受容された要因とその影響を論じた。

・ 『ドン・キホーテ』マルセーラの人物像とその魅力

マルセーラの人物像を多角的な視点から分析する。

・ 芸術とエコロジー ―環境主義からみるヨーゼフ・ボイスの社会彫刻について―

ドイツの現代芸術家ヨーゼフ・ボイスの芸術活動とエコロジーの関係について、ボイスが提唱した「社会彫刻」の芸術概念を手掛かりに論じた。

- ・ 1870-1900 年代初頭のイリヤ・レーピンの変遷と教育について

ロシアの画家イリヤ・レーピンの来歴と作風の変化を辿るとともに、教育者として重視したものを考察する。

- ・ 『眠れる森の美女』からみる文学をバレエ化することについて

童話からバレエへと翻案するための表現方法を考察する。

- ・ 「異邦人」におけるムルソーの感情分析と不条理の定義

アルベールカミュによって描かれた『異邦人』において、感情が読み取りづらいとされる主人公ムルソーの感情を「関わり」という視点から分析し、彼が直面した不条理の大きさを図るものである。

〈超域文化専修〉

- ・ 在日シンガポール人の言語使用意識と調整行動

多言語話者である在日シンガポール人の言語使用意識と問題に対する調整行動をインタビュー（インターアクション・インタビューを使用）から見る。

- ・ ディズニー映画『ポカホンタス』（1995 年）と『ポカホンタス II』（1998 年）にみられる変容とイデオロギー

ディズニー映画『ポカホンタス』シリーズと入植者と先住民、または男性と女性の非対称な関係性へ着目し、史料に示されている内容と映画との比較から、映画に含まれているイデオロギーを指摘した。

- ・ 初対面第三者言語接触場面でのスピーチスタイル・ダ体へのダウンシフトに着目して―

日本語学習者の初対面場面でのスピーチスタイルについて、デス・マス体からダ体へシフトする要因と特徴を明らかにする。

- ・ 日米大学生における外国語学習とアイデンティティの関係

日本人大学生 2 人とアメリカ人大学生 2 人を対象に英語学習または日本語学習についてインタビュー調査を行い、彼らのアイデンティティやその変化と外国語学習との関係を考察し、社会文化的背景を批判的視点から考えた。

- ・ 異文化接触場面と英語教育―bonus information の観察を通して―

日英の映画における bonus information の観察をし、日本の英語教育に活かす方法を考える。

- ・ New Impression of Norton's *The Borrowers* caused by Ghibli's *The Borrower Arrietty*

原作小説 *The Borrowers* を翻案・映画化するにあたって『借りぐらしのアリエッティ』（*The Borrower Arrietty*）は物語の背景情報、登場人物の設定・性格、そして物語の展開自体を変化させており、その違いが映画を原作とはまた違ったテーマをもつ新たな作品として、観客に新鮮さや親しみやすい印象を生み出している。

- ・ 韓国人日本語学習者の断り談話におけるポライトネス・ストラテジー分析

韓国人日本語学習者と日本語母語話者との日本語による断り談話において、どのようなポライトネス・ストラテジーが現れるかを、ロールプレイ調査及びフォローアップインタビューを基にして明らかにする。

・リテラシー問題から見た貧困の連鎖～タイ王国と識字教育を中心に～

タイ王国における貧困問題について、識字という観点から、その背景や現状を探り貧困問題の解決策について考察する。

・映画の日本語字幕と英語セリフの比較からみるジェンダー・ステレオタイプ—Amazon オリジナル『シンデレラ』の分析を通して—

Amazon オリジナル『シンデレラ』の登場人物のセリフに着目し、映画字幕における女ことば・男ことば、会話の文末表現のジェンダー表現はどのような出現傾向にあるのか、また英語セリフと比較した時「女らしさ」「男らしさ」などのアイデンティティはどの程度削除または追加されるのか比較・検討した。

※2023 年度以前の主な卒業論文題目については、「文学部案内」の 53 ページをご覧ください。